
うさぎとかめ

夢咲白懂

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

うさぎとかめ

【Nコード】

N9962M

【作者名】

夢咲白懂

【あらすじ】

走ることが苦手なすむ。クラス一のモテ男の麟太郎。5年1組担任、熱血教師、秀聡。冬休みが終わり、今年からすむの嫌いな持久走大会が！？…ちよっぴり可愛い？ほのぼの？青春ストーリー…もしよろしければご覧ください。

(前書き)

ちよつとしたほのぼの？青春ストーリーです。

私的にちよつと可愛く書けたかな？と思っています。

もしろしければみてやってください m () m

《登場人物》

遥^{ハルカ}すすむ…かめ

ツバキリンタロウ

椿麟太郎…うさぎ

ヒデアキラ

秀聡…5年1組担任、陸上部顧問。

もしもし かめよ かめさんよ
せかいのうちに おまえほど
あゆみの ろい ものはない
どうして そんなに ろいのか

どうして上手く走れないの？…

小学5年生の1月。冬休みが終わる。

三学期。始業式が終わる。

5年1組。

秀先生…始業式お疲れさま。

始業式でも言ってたように今年から全校で持久走大会をする。

大会は2月の中盤！それまで体育の時間などで練習を始める。

皆！やるからには全学年で一位を目指そう！！！！

教室がざわめく。

嬉しそうな子もいれば、嫌そうにしている子。

その中でひたすら、

下を向き不安そう（青く）になっている子が一人。

遥すすむ。

すすむは運動が苦手だった。

特に走ることが大の苦手だった。

始業式の次の日は、冬休み明けのテストを1日した。

また次の日の体育の時間。

秀先生…昨日も言ったように、

今日から持久走大会に向けての練習を始める。

今日はそれぞれの実力が分かるように50mのタイムを計る。

それじゃあ出席番号順にならんで!?

皆出席番号順に並ぶ。

秀先生…みんな気合い入れていけよお!!!!!!

【ピッ】

スタートの合図の笛の音が運動場に響き渡る。

秀先生…では、次!…樅!…? よーい…

【ピッ!】

運動場が少し騒ぐ。

秀先生…椿！お前すごいなあ。また自己ベスト更新だぞ！！

椿麟太郎。

5年1組のモテ男。

勉強、運動神経共に抜群。陸上部のエース。

麟太郎…何秒だったの？

秀先生…7秒31！先生は嬉しいぞお！！！！

秀聡。

5年1組の担任&陸上部顧問！

彼はとても熱い男だった。

秀先生…じゃあ次は…

野口がインフルエンザが休みだから、遥！行ってみよう！！

すすむは恐る恐るラインに立つ。

秀先生…お！遥、緊張してんのか？

大丈夫だ！落ち着いてまっすぐ前を見て走ってみろ？

すすむ…：はい。

秀先生…さあ遥あの夕日に向かって走り出せえー！！！！
位置について、よい…

【ピッ】

一気に走り出す、すすむ。
ストップウォッチのスイッチが押される。

秀先生…：11秒52か。

すすむ…『11秒52?…』

これじゃあクラスどころか学校一最低記録じゃないか…』

秀先生…遙、前の50mより下がってないか？

すすむ…：

秀…まあいいか。遙！これから頑張ろう！！…でわ、次！

全員のタイムを取り終えたところで、
キヤイムがなり体育の授業が終わる。

学活の時間。

秀先生…今日は昨日したテストを返すからな。

すすむは勉強は得意だった。

特に国語や社会が得意だった。それは、麟太郎以上に。
今回も算数、理科は、麟太郎の方がやや上だったが、
国語と社会は満点でクラスの誰よりも点が高かった。
授業が全て終わり生徒が集まりだす下駄箱。

すすむが靴を出し履こうとしていたそのとき。

麟太郎…よお、すすむ…

すすむ…麟太郎くん？

麟太郎…今日の50mタイムお前何秒だった？

すすむ…

麟太郎…11秒代だってな？

すすむは少し下をむく。麟太郎が笑う。

麟太郎…100mの最高記録目指してんじゃないんだぜ？

…まあ、クラスのお荷物だけにはなるなよ！？？

すすむ…

嫌味を言う麟太郎に、少し暗くなる　すすむ。

麟太郎は負けず嫌いの性格だった。

国語と社会のテストですすむに負けたことが悔しかったんだろう。そう言い麟太郎は笑いながら帰って行く。

それから一週間。

体育の時間などで長距離を走った後、何度か短距離(50m)も走ったが、すすむのタイムは全然変わらない。

ある日の放課後、すすむは秀先生に呼ばれた。

秀先生…遙は走るのが苦手か？

中々伸びないタイムと、

その都度に落ち込むすすむのことが気になったのだ。

秀先生…走るとは好きか？

秀先生がすすむに聞く。

すすむ…あんまり好きじゃない。走るよりも本を読む方が好き。

秀先生…そうか…遙はなぜ本が好きなんだ？

すすむ…だって楽しいもん。

秀先生…そうだな。じゃあなぜ走るのは嫌いなんだ？

すすむ…：楽しくないから。

秀先生…そうか。…もし今よりも速く走れることが出来たら…：
走ること楽しくて好きにならないか？

すすむ…そりゃ、少しは好きになるかも知れないけど、
速くなんてなれないよ…

秀先生…なぜ速く走れないと思う？
そんな風に思ってたら速くなれるもんもなれないぞ？

すすむ…だって速くなんなんないもん。
今まで誰よりも遅かったんだもん。

秀先生…遙は誰かに走り方教わったか？

すすむ…走り方？

秀先生は頷く。

秀先生…速く走るコツさえ掴めば誰だって速く走れるさ！

すすむ…ほんとに？

秀先生…ホントさあ！後はちょっとした努力が必要だがな！！
ココだけの話、あの椿も才能は有ったものの、
部活に入っただけの頃は8秒代後半だったんだぞ！

すすむ…麟太郎くんが！？

『…それでも、凄いなと思うけど』

秀先生…だから遙も諦めるな！？

すすむは少し元気になった。

そして秀にコツを教わる。

そして放課後が終わり、家に帰ると毎日近くを走るようになる。
そうしていく内に少しずつだが、
確実にすすむのタイムは縮まっていく。

一週間。

11秒代だったタイムが10秒代に変わろうとしている。
タイムが短くなる。

その度にすすむは嬉しくなって、
もっと速く走れるように練習を頑張っていく。

ある日の放課後。

すすむは、近所の公園で、いつものように走る練習をしていた。
その頃、麟太郎は友達の家から帰っていた。

その帰り道、麟太郎はその公園の前を通りかかった。
そして、つい足を止めてしまう。

麟太郎…『：すすむ？』

そこには一生懸命練習をしている、すすむの姿が…

麟太郎…『あいつ：最近少しだけど、
タイムが上がってきてると思ったら…：
こんなところで練習してたのか…』

麟太郎…まあ、俺には関係ないか…

そう言って麟太郎は帰っていった。

それから数日経つ。

そして、大会の前日。

再びすすむは、秀先生のもとに呼ばれる。

秀先生…遙！最近調子良さそうだな？

すすむ…うん。先生のお陰だよ！？

秀先生…お！嬉しいこと言ってくれるじゃないか♪

秀は喜んでそう言った。

秀先生…この調子なら明日も大丈夫そうだな！？

すすむは深く頷いた。

すすむ…今、毎日家の周り走ってるから、
体力にも大分、自信があるんだ♪

すすむは嬉しそうにそう言った。

それを見て秀もまた嬉しそうに言う。

秀先生…遙…大分逞しくなったな？

すすむ…え？

秀先生…冬休み開けて直ぐの時は、
体育の時間になると下を向いてばかりだったのにな？…

すすむ…うん…

すすむは軽く頷いた。

そして秀がすすむに聞く。

秀先生…遙!…あの時の質問をもう一度聞く…

すすむ…?

秀先生…走ることは好きか?

すすむ…………うん!

すすむは深く頷いた。

秀先生…そうか…なぜそう思うんだ?

すすむ…だって楽しいもん。

秀先生…そうだな。じゃあなぜ走るのが楽しくなった?

すすむ…前より、速く走れるようになったから…

秀先生…なぜ速く走れるようになったと思う?

すすむ…?…先生が速くなるコツ教えてくれたからじゃん??

秀先生…それも有るがな…

一番大きかったのは、遙が努力したからなんだぞ!?

すすむ…:

秀先生…俺がいくらアドバイスしたとしても、
それを実行しないと意味がない!

しかしそれでも、ただ実行したからといって、一度や二度したぐらいで速くなりはない！

すすむ…先生は何が言いたいのか？

秀先生…つまり、遙が速くなれたのは俺のお陰じゃない…

すすむ…？

秀先生…遙が速くなれたのは、遙自身が、日々毎日努力したからだ！…よく頑張ったな！？

秀はそう笑顔で言う。

そしてすすむの頭に手を起き、その頭を思いっきり撫でた。

すすむ…

すすむは少し照れるように下を向く。

秀先生…遙覚えておけ？努力は大事だ！
努力すれば誰でもそれ（目標）に近づけるんだ！！

すすむ…：うん！

すすむは下を向いたまま深く頷いた。

かめだって、努力すれば速く走れるんだ…

大会当日。

四年生が走り終わる。

いよいよ五年生男子が走る番。

そして、

「位置について」

皆、スタートラインに経つ。

「よいい」

いよいよ…

【バンツ！】

合図になる。

五年生男子の皆が、一斉に走り出す。

すすむは真ん中の方を走っていた。

そんなすすむに一人近寄ってきた。

すすむ…『…麟太郎くん!?!?』

麟太郎…

麟太郎はすすむの方を見る。

すすむ…？

麟太郎…：ま、頑張れよ？

すすむ…え！？

麟太郎はそう言うと言と最前列の方へ駆けていく。

すすむ…：麟太郎くん！？

大会も中盤に差し掛かる。

麟太郎は最前列を走っていた。

麟太郎…『すすむの奴…今どの辺走ってんのかな？』

その時、後ろで話し声が聞こえた。

「聞いたか？」

「なにが？？」

「なんか後ろの方で怪我人出たらしいって…」
「マジで！？」

麟太郎…『怪我人？…』

「先生知ってんの？」

「さあ？」

「…それで？」

「ン？」

「だから、そいつって誰？俺等のクラス??」

「嫌…確か……」

麟太郎…

大会後半を迎え、ゴールを終えた選手も何人かいた。けど、その中に、麟太郎の姿はなかった。

麟太郎…

『嫌…確か……一組の…』

すすむ…：ナンデ

その頃、すすむは泣いていた。

すすむ…：ナンデ…こうなるの??

すすむは最後尾を一人 歩いていた。

やっぱり…かめはかめなんだ…

そんなすすむの元へ、

「すすむく!?!」

前の方から誰かが一人、
走り寄ってきた。

すすむ…!?!…麟太郎くん!?!?

麟太郎はすすむの元に着くと息を切らせていた。

すすむ……なんで!?!…なんで、麟太郎くんがここに!?!?

麟太郎…ハアハア

麟太郎…『一組!?!』

「一組の誰?」

「え…と、誰だっけ?」

「なんだ…知らねえのか?」

「ン…、確か……あ! 亀だよ、亀!」

「亀?」

「ああ! 一組の亀…」

「なんだあ、亀か…じゃあどっち道ビリじゃん?」

「まあ…」

二人は笑う。

麟太郎…『一組の亀……すすむの事か…』

…

麟太郎…『…俺には関係ない………』

…

麟太郎…『俺には………』

麟太郎…ハアハア

すすむ…麟太郎くん!?

麟太郎…………ガ

すすむ…え?

麟太郎…………ケガ…したんだって?

すすむ…………

すすむは軽く頷く。

すすむ…でも何で???

麟太郎…五組の奴等が言ってた…

すすむ…え???

麟太郎…一組の亀が怪我したって…

すすむ…一組の亀って…：僕のこと!???

麟太郎…他に誰がいるんだよ!?

すすむ…『：その通りだけど…：

そんなにハッキリ言わなくても…：…』

麟太郎…それで?

すすむ…?

麟太郎…怪我したんだろ?平気なのか!??

すすむ…あー…

すすむは自分の足を見る。麟太郎もその足を見る。
その足は腫れていた。

麟太郎…：これ…：…

すすむ…麟太郎くん?

麟太郎…捻挫してるかも…

すすむ…：…：…：…うん

すすむは軽く頷いた。

麟太郎…これじゃあ、もうゴールは無理なんじゃ…

すすむ…嫌だ!!

麟太郎…すすむ?…

すすむ…あ….:嫌.:そのお….:

麟太郎…:

麟太郎はすすむの横に着く。

すすむ…麟太郎くん!??

そして、すすむの肩を組む。

麟太郎…この方が足に負担掛けないだろ?

すすむ…:

すすむが不思議そうに麟太郎を見る。

それを見て麟太郎は言う。

麟太郎…ゴールするんだろ!!?…

すすむ….:麟太郎くん!?….:うん…:

すすむは深く頷いた。

そして、少しずつ歩いて行く。

すすむは再び、麟太郎を見る。

それに麟太郎が気づく。

麟太郎…なに？

すすむ…え？……嫌…ただ…何でかなって……

麟太郎…？なにが？？

すすむ…だから…何で、麟太郎くんはこんなことするの？

…最前列に居たんでしょ？それなのに…

麟太郎…

すすむ…それに、どっち道…

僕はビリだったかもしれない……

すすむは少し哀しそうにそう言った。

麟太郎…：なんだ、そんなことか？

すすむ…え？

麟太郎…お前は確かに亀だけ…

俺は努力する奴は嫌いじゃない…ただそれだけだ……

すすむ…麟太郎くん…

麟太郎…ビリでもさあ…この俺と一緒にゴールするんだ！
……だから、そんな顔でゴールすんなよ？

すすむ…え？

麟太郎…自信持て！？…俺はもう、お前を遅いなんて言わない……

すすむ…

麟太郎… …だから……胸張ってゴールするぞ！！？

すすむ……うん！……麟太郎くん？

麟太郎…ン？

すすむ………アリガトウ

麟太郎…

数十分後。

秀先生…！！？見えたぞ！！…最後の二人だ！！！！

ゴール手前、大勢の声援が二人へ響く。

そして二人はゆっくり腕を上げゴールする。

もしもし かめよ かめさんよ
せかいのうちに おまえほど
あゆみの ろい ものはない
どうして そんなに ろいのか

努力すれば誰でも報われる。
努力すればかめだってゴールできる。
だけど、一人では何もできない。
沢山の手を借りながら少しずつゴールしていく。

一番がいれば必ずビリがいる。
誰かは必ずビリになる。
何もしないビリはカッコ悪い。
だけど、何かをしたビリなら…
胸を張ってゴールすればいい。

この…うさぎとかめのように。

(後書き)

このお話を通して何か共感して頂けたら幸いですV V
私も、努力しよ；；

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9962m/>

うさぎとかめ

2010年10月12日04時19分発行